

NPO法人全日本シニアアンサンブル連盟機関紙

ひびきあい

- 発行責任者 芹澤 昭仁
- 編集者 小林 忠雄
- テ 182-0012
- 調布市深大寺東町3-10-4
- TEL/FAX 042-487-6403
- <http://members3.jcom.home.ne.jp/jse/>
- jse@jcom.home.ne.jp

第11回シニアアンサンブル 全国大会in千葉を終えて

NPO法人 全日本シニアアンサンブル連盟
理事長 芹澤 昭仁



今年も早や12月に入りましたが、3・11の東日本大震災と津波に続く原発事故により、多くの亡くなられた方々に哀悼の意を、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。さて、当連盟主催の全日本シニアアンサンブル全国大会は、平成23年10月10日(月・祝)千葉県文化会館において、無事に開催することができました。ご参集いただいた各団員の皆様には厚く御礼申し上げます。

なお、熊谷千葉市長様には、ご多用中態々ご来場下され、ご懇篤なるご祝辞を賜りましたことをご報告致します。

当日は晴天に恵まれまして、多くの高齢者を含む多数のご来場者、加えて出演者も他の楽団の演奏を出来るだけ観聴するようお願いし、会場はほぼ一杯になりました。又今回は幕間時間の厳守に特段の指導と協力をお願いしました結果、終了時間も15分の超過に止まりました。舞台進行のご担当の皆様のご努力に感謝を申し上げます。

次に本大会には、初めてご参加の楽団が多く、いずれも大変立派な演奏をされ、大会を大きく盛り立てて頂きました。改めて賞賛と心からの感謝を申しあげます。

又、従来とかくコンクール指向にありましたが、今回はフェスティバル指向に切り替えました。

幾分か和やかになったのではと思います。又アトラクション無にして、連盟の全力投球といった、生の音楽を楽しんで頂けたことだと思います。観聴者の皆様にはそのことに、むしろシニアアンサンブルらしさを感じられたかも知れません。

今回、試験的に連盟独自の講評を私と村上名誉理事長並びに、鈴木副理事長で行いましたので、僭越ですが発表させて頂きました。

ただ一つ残念なことでしたが、本大会に参加された団員の中で、館内で移動中に階段で転倒され、負傷されるという事故がありました。大変お気の毒なことであり、連盟としても反省すべき事態として、今後の大会にはこの経験を生かさねばならないと思います。

11月27日(日)平成23年度第4回の理事会を開催しました。詳細は議事録をご覧下さい。

なお、第12回大会は宇都宮市の県民文化会館で、平成25年9月29日(日)に決定しました。

宇都宮シルバーの皆様には大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、今回の大震災につき、連盟として義援金を呼びかけ、各楽団総額504,810円を寄付いたしましたことを報告申し上げます。

♪ 音楽と私 ♪

徒然なるままに書いて分かる心の栄養剤

千代田神田アンサンブル
代表 濑尾 崇子



2年前まで仕事に熱中していた時の私にとって、音楽は2の次でした。高校生に受験で勝てる数学の解法のコツを教えたり、大学入試予想問題を考える事が最大の生き甲斐でした。近所付き合いなんかする暇も無く必要も感じず教え子たちが数学を好きになり、成長していく姿を見ることに自己満足して過ごしてきました。そんな生活の中心であった仕事をいざ退職してしまった後、他人とのつながりのない都会の生活の中で家に引きこもっていたら多分老後は無味乾燥でボケまっしぐらだったかもしれません。今更ながら細々ながらヴァイオリンやビオラやオペラを習っていて良かったなあと思います。仕事第1であっても忙しい仕事の気分転換として音楽は、私にとって栄養剤の様な物でした。それがあったからこそ仕事に熱中してこられたのかもしれません。私が音楽を身近に感じてきたのは、物心ついた頃から家にピアノがあったからで、なんと大正3年生まれの母が娘時代から弾いていたというヤマハのピアノです。今みたいにシンプルなものでなく足なんかもゴテゴテ彫刻のついた古いピアノです。多分ヤマハの製造番号の若いものなのでしょう、今持つていれば貴重な骨董品になっていたかもしれません。姉はそれを幼少のころから好むと好まざると

に拘わらず毎日強制的に弾かされたり歌のレッスンに連れて行かれたりしていました。妹の私は一切お稽古事はやらされず放任で育てられ、近所のガキ大将となり庭の柿の木に登ったり、杉の木伝いに家の屋根に飛び乗ったり、大切にしていた手乗りの小鳥を食べてしまった近所の猫を追いかけてバケツの水を浴びせたりとお嬢様として育てられている姉と比較してこれが同じ親から生まれた姉妹なのかと疑われるほど腕白そのものでした。ところが中学生になったある日、姉が弾いていたショパンの幻想即興曲を聞いて美しい曲だなあと感動し自分も弾いてみたいなあと思うようになり、自分からピアノを習わせてほしいと頼み、それが私の音楽同伴人生の始まりとなりました。大学生になって家庭教師をして初めて自分で買ったレコードがレオニード・コーガンのチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲でした。そのヴァイオリンの滑らかな澄んだ音のビブラートには心が揺るがされました。いつの日か聴くだけでなく自分でも弾いてみたいと夢見るようになりました。クラシックの名曲にはたとえ自己流に下手に弾こうとも自己満足であっても己の心を揺るがし、心の寂しさや寒さを暖め傷ついた心を癒やしてくれる不思議な力、優しさが詰まっている様な気がします。

ついでに、そんなエピソードの一つを紹介します。もうかれこれ20年以上前の話です。私を姉のように頼ってきてくれていた従妹が結婚し幸せに過ごしていたはずなのに、ある時大好きなエレクトーンに鍵をかけて弾けなくしてしまったと嘆いて電話をかけてきました。その時は近所からうるさいと苦情があったのかな位に思ってヘッドホン使えばいいじゃないのなんて軽く対応していました。ところがその時、彼女の心は病んで、傷ついていて私に何か救いを求めていたなんて気がつきませんでした。その日の電話での彼女は私が口をはさむ余地が無いほど一方的にいろんなことを喋り続けていましたがその何日か後に、まだ幼い

♪ 音楽と私 ♪

2人の子供を残して自らの命を絶ってしまいました。今でも唯一私を頼っていた彼女の心の病を救ってあげられなかったことに、あの時にどう対応してたら彼女は自殺しないで済んでいたのだろうかなあと思い自分を責め、苦しました。その頃、仕事の合間にお気に入りで聞いていた曲がブラームス交響曲第3番でした。この曲はまさに自分の気持ちを表現しているみたいで何度も涙ながらに繰り返し聴いたものでした。ブラームス交響曲3番の1楽章は短調ではないのに寂しさを秘め、途中からは情熱的に変わっていき最後は静かな回想的な穏やかなながれ落ち着いて終わる。2楽章は全体的に寂しさを含んだ静かなメロディーで飾らず静かに落ちていく。3楽章は一番感動的で哀愁に満ちたメロディーが美しく奏でられ、これが私の胸にグーっと込み上げてくるのを感じさせました。映画などにもここはB.G.Mとして使われています。4楽章になって力強い低音が響きだし3楽章で感傷的になってしまった気持から奮い立たされ激情的になり、でも最後は落ち着いた優しく穏やかな調子に戻り、柔らかく心を包み込むようにして消えていく。

これはまさにその頃の私の心を映し出しているようでした。たまたま楽器店でこの3楽章のピアノバージョンを見つけ自分で弾いて感傷に浸っていたものでした。ただ悲しい激情に浸るだけではなく最後は希望を取り戻して穏やかに終わり気持ちの整理が付き安らぐ感じがしたのです。私が死んだ時はこの曲を一晩中かけて静かに送ってほしいと思っているのです。

やはりクラシックの名曲はいいものです。教えていた高校では卒業式で卒業生が退場していく時にプラスバンドの演奏と有志合唱でヘンデルのハレルヤ・コーラスを演奏します。私はいつも有志合唱に混ざって歌いました。これを背に聴きながら希望に燃えて新たな進路を目指していく生徒達の心にこの曲はぴったりで、多分卒業しても彼等

の心に残る1曲だと思います。オラトリオ「メサイア」の第2部で最後に出てくるのですが、救世主の受難、復活、昇天、福音の伝播を見事に表現し、この度の日本を襲った大震災にも復活の願いを込めてこの曲を届けて元気を取り戻してほしいと思います。

退職してやっと自由な時間ができ、念願の年寄り仲間と「アンサンブルを奏でようよ」ということになり、昨年春「千代田神田アンサンブル」を立ち上げました。ホームページ以外は何も宣伝していないし、千代田区の昼間ではなかなか暇な仲間が見つかりません。しかも、仲間の中には首が痛い、腰が痛い、指が痛いだの結構老人特有の悩みを抱えた人も多く技術的にもなかなか向上しませんので大きな曲は演奏できませんがホームページを見たアンサンブル好きな者達が現在13名程集まり菅先生の指導のもとで月2回のレッスンを楽しんでいます。細く長く続けて行くつもりです。皆様末永く応援よろしくお願いします。



第11回 シニアアンサンブル全国大会開催

10月10日(月・祝)千葉市の千葉県文化会館大ホールに於いて、当連盟主催、千葉県・千葉県教育委員会・千葉市・千葉市音楽協会の後援、千葉ヤマハ会の協賛のもと盛大に開催されました。

当日は好天にも恵まれ、熊谷千葉市長をはじめご来賓客約50名、一般ご来場客約1,050名をお迎えし、理事長の開会宣言について熊谷市長からご祝辞を賜り、いよいよ参加楽団の演奏が次々と大ホールに響き渡りました。

以下は出演16団体、12ステージ、出演者277名の演奏中の写真と講評です。

尚、講評は村上名誉理事長、芹沢理事長、鈴木副理事長の3氏にお願いしました。



芹沢理事長の開会宣言 熊谷千葉市長のご祝辞

①市原シニアアンサンブル

指揮：大野悦男先生 代表：多見谷正子以下19名

演奏曲：「スラヴ舞曲第10番」「茶摘み」「Hey Jude!」

◎1評：

「スラブ舞曲第10番」柔らかい雰囲気を生み、よくまとめました。

指揮者がよく団員のリズムを揃え、歌いあげました。楽器の性格を良く捕らえて編曲しています。

力強さもあり、オブリガードも効果的です。

3曲目（「Hey Jude!」）は観客も歌い上げており、満足しています。

これからはやゝ早い曲を選び、団員の力量を更に高めますことを希望します。

◎2評：

弦・木管楽器を中心に大変充実した、これぞシニアのアンサンブルと言える素晴らしい演奏でした。

柔らかな弦の響き、その中を木管が色どり豊かにメロディーを吹き上げていて、素敵でした。キーボードの音色づくりも、全体をつつんで調和あるアンサンブル。編曲の良さでもあります。

これからも合奏を通じて元気を保ち、社会貢献も続けて下さい。

次回（平成25年）は宇都宮大会。皆様の演奏を是非聞かせて下さい。



②千代田神田アンサンブル

指揮：菅 新先生 代表：瀬尾崇子以下12名

演奏曲：「精霊の踊り」

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」

「嘆きのセレナータ」

◎1評：

私どもにとって、心に残る懐かしいメロディーが皆様の合奏と共に、脳裏を駆け回っています。弦楽合奏は心が癒されます。一人より二人……皆様の合奏は、これから的人生で生きる力、喜びをもたらす大きな活力となりますね。高齢化社会の中で活躍の場も多いでしょうね。

第3曲(嘆きのセレナーデ)のソロ(SOP)も会場を沸かせました。素晴らしいかったです。

次回の全国大会は宇都宮。皆様の素晴らしい演奏を期待しています。



◎2評：

「精霊の踊り」もモーツアルトの「アイネ・クライネ」もフルートがよく歌っていました。ヴァイオリンは強弱を付けるのが一番難しいのではないか?

ピアノがあまり出しゃばらなかったのが、弦楽のハーモニーをよく表現出来たのではと思いました。一方ソプラノは大変綺麗な声で感心しました。

ともかく弦楽器を主体とした貴団は、今後ともJSE(全日本シニア)の中で貴重な存在です。次回も是非ご参加ください。

◎3評：

曲の表現も心得ており好感をもって鑑賞出来ました。ソプラノは素晴らしい。高い音がしっかり出ていました。又ヴァイオリンも立派です。残念ながら時々音程の違いがあり、これからの精進を期待しています。誠に有望です。

③アンサンブルポニー・かつしか

指揮：五十嵐淳先生 代表：上原成介以下18名

演奏曲：「「江」のテーマ音楽」「虹の彼方に」

「チャルダッシュ」



◎1評：

皆様の演奏は、何度も聞かせて頂きましたが、指揮者が替わって(メンバーも大分変わった?)新生“ポニー”といった感じの素晴らしい演奏で、感銘深く、涙が出てきて、音楽の力の偉大さを改めて感じました。ソロの人達は専門に音楽に関わったことがあるのでしょうか、それを支えに皆様のアンサンブルのすばらしさ。特にキー ボードで作る音色は秀作です。

これからも、自らの生き方として、社会貢献も大いに果たして下さい。

次回は宇都宮。期待してお待ちしています。

◎2評：

一昨年は第10回大会IN葛飾のメインホストの大役を果され、改めて心から感謝申しあげます

NHKの大河ドラマ「江」のテーマをトップに出すとは、指揮者の思いが如何に強いか、感動しました。

貴団は名ヴァイオリニスト二川さんのソロ、それも難曲「チャルダッシュ」を取り上げ、バックの演奏もさぞ大変だったと思います。それとプロかと思われるような「シロホン」の素晴らしいテクニックに感動しました。何れも他の楽団では真似の出来ないような貴重なプレイヤーですね。

新指揮者を迎える、20年の重みを十分に發揮された貴団の益々の活躍に期待します。

④デューク・グリーン・サウンド

代表：佐野敬次：以下10名

演奏曲：「ムーン・ライト・セレナーデ」

「ウォーター・メロン・マン」

「鈴懸の径」「セレソローサ」

◎1評：

メンバーも増えたのでしょうか？年々技術が向上して、すばらしいバンドに成長していく敬服いたしました。

素晴らしい第一はサウンドが良くなつたこと、柔軟性のあるサウンドで、曲の表現力が豊かになりました。

気持ちが入つた楽しいステージでした。これだけの演奏力は地域が見逃すことはないはず。自らステージを楽しみ、社会奉仕も積極的に……。

次回は宇都宮大会。ナベサダを中心とした、ジャズの街。皆様のお出でを楽しみにしています。



◎2評：

私は何より「ムーン・ライト・セレナーデ」と「鈴懸の径」が演奏されたことが本当に嬉しかった。私はジャズに馴染みが薄い方ですが、このようなポピュラーな曲を吹いてくれると、たまらなく好きになります。演奏会では私のような人の為に、誰にも解かるサウンドを必ず演奏曲目に入れて欲しい。

⑤足立シニアアンサンブル

指揮：笹森敏明先生 代表：高橋昭五以下24名

演奏曲：「アメイジンググレイス」

「ドナウ川のさざ波」

「アニバーサリーソング」

◎1評：

シニアアンサンブルの元祖。そして大黒柱でもある足立の皆さん。2年ぶりに聞かせて頂きました。懐かしい皆さんの健在ぶり。大変嬉しく思います。

以前はヴァイオリンが多く、良く鳴っていて、それにキーボードが調和して、アンサンブルの良さが魅力でした。今回はヴァイオリンが3名。時代が変わってスタイルも変化していくんですね。私の合奏団も同じで、演奏会のたびにアレンジ直しが大きな課題になっています。

今回は笹森先生のアレンジでしょうか。現代風にしたり、ステキナ編曲演奏で感動を深めました。ここでもキーボードの音使いのすばらしさ、学びたく思いました。

◎2評：

足立シニアは、私の自分の楽団のように親しいアンサンブルです。それは、全日本シニアアンサンブル連盟の中で、私が一番最初に聞かせて頂いた楽団だからです。そして足立シニアは、当連盟の看板を背負って来た楽団です。

前理事長村上氏が創設し、そのまま全日本に発展させたのが足立の皆さんですから。

ともかく、今日の演奏も例え指揮者が山本先生から笹森先生に代わろうが、伝統の重みをじっくりと感じさせる落ち着いた演奏で、シニアアンサンブルの目指すべき目標に違いないと思わざには居られませんでした。「ドナウ川のさざ波」の響きは誰でも自然と口ずさんでしまったことでしょう。



⑥東京西合同シニアアンサンブル（調布シニア・杉並シニア合同）

指揮：福田信一先生 調布代表：芹澤昭仁以下21名 杉並代表：林 将人以下16名

演奏曲：「交響曲第41番ハ長調（ジュピター）第1楽章」「カルメン組曲より」「ハバネラ」「闘牛士」

◎1評：

プロのヴァイオリン奏者を指揮者として迎えた合奏団だけに、よく纏まつた演奏で古典の管弦楽曲を楽しく聞かせていました。シニア・シルバーの合奏団も良い指導者を得れば、心を打つ演奏が出来ることを実証して頂きました。

「少年・青年期の夢よもう一度！」これからのご活躍を祈念申しあげます。

次回大会は宇都宮。よい演奏を聞かせて頂ける事を楽しみにしています。



第11回全国大会に参加して

千葉シニアアンサンブル
柏原 裕正



全国からシニアアンサンブルの人達が集って一堂に介し、日頃の練習の成果を披露し合い、また多くの来客に聴いてもらう、こんなすばらしいことは他にないと思います。

昔、中学校（旧制）の漢文の時間に最初に習った論語の言葉を思い出します。「朋あり遠方より來たる。亦樂しからずや」大会はまさにそのとおりの一日でした。

思い起こせばシニアアンサンブルに入団したのは平成20年6月、それまでヤマハの「大人の教室」で習い、時々発表会はありましたが、限られた範囲

で、まるで井底の蛙。若い頃から練習を始め腕を磨いて来た人達に伍してゆけるか大きな不安を抱きながらの入団でした。

その翌月には早くも結成お披露目のコンサート、無我夢中でバイオリンを弾きました。

その年の秋には横須賀における第9回の全国大会を聴きに行き、スケールの大きさに圧倒される思いで感動のひとときを過ごしました。

翌21年9月には東京葛飾における第10回の全国大会に参加、大きなホールでの合奏をはじめて経験し、不安のうちにも何とか演奏を終え、安堵感で胸をなで下ろすと共に、全国大会の雰囲気がつかめたようで、翌々年千葉で行われる大会に向けての決意を固めました。

23年に入ると練習にも熱が入り、「唱いながら弾く」「ブレスするところでは弦もブレスする」等、笠森先生のご指導によって一段の向上を目指しました。また数回にわたる3楽団（我孫子、市川、千葉）の合同練習は自らの垣根を取りのぞき、一体感が生まれ回を重ねるごとに呼吸が合ってゆきました。

以上が入団以来大会を迎えるまでの回想ですが、10月の10日愈々第11回の全国大会を迎えました。3年間の努力はやはり報われるもので舞台に上がってあわてることもなく、周囲を見渡しながら日頃の練習の成果をまずは存分に発揮しました。他の楽団の方々も同様な思いだったでしょう。皆さんのが

輝いていました。そして次々に流れてくる音のなんとすばらしかったことか、また客席から起る拍手の何と大きかったことか。終日至福の一日でした。

それにしても何ヶ月も前から準備に当たられた関係役員の方々の努力には感謝の念を禁じ得ません。出番を待つ間、舞台の袖で裏方の方々の動きを目のあたりに見ながらつくづく感じた次第です。

最後に打上げの懇親会では、入団して日も浅い一員に対し、はからずも乾杯の音頭を取るようご指名をいただきました。出席者中最高齢者ゆえのことかと恐縮しながら大きな声を張り上げて音頭をとせしていただきました。

連盟の益々の発展と次回の全国大会の成功を心から祈念します。

⑦船橋・四街道合同シニアアンサンブル

指者：成島広先生

四街道代表：佐々木信一以下21名

船橋代表：穴倉和夫以下14名

演奏曲：「昂」「世界民謡めぐり環太平洋」

「サントワマミー」

◎1評：

オーケストラの大編成でよくここまで纏めて下さいました。今後更に歌い上げるようになるのが楽しみです。声楽専門の方の出演は珍しく、今後もよろしく歌い続けて頂きたいと思います。この楽団には楽器の経験の長い人が多いようですね。“世界民謡めぐり”などは簡単には演奏出来ません。しかも大変美しい音で羨ましい限りです。

ともかく恵まれた環境ですから、これからも更に期待がもてます。

◎2評：

船橋市と四街道市が距離的にどれ位か知りませんし、両楽団の合同レッスンが何回実施されたかも解かりませんが、良くもこんなに立派に纏められたものだと、正直、感服しました。先生の並々ならぬご苦心があったことでしょう。心から御礼申しあげます。勿論団員の前向きな努力あってのことですが。……



⑧宇都宮シルバーアンサンブル

指揮兼代表：鈴木基司先生 山岸篤四郎以下29名

演奏曲：「アニーローリー」「ロシア民謡を訪ねて」

「ラ・クンパルシーター」「証城寺の狸囃子」

◎1評：

当団は全日本シニア誕生と同時に発足された楽団で、地域において大変立派な活動をされていますが、かかって鈴木先生のご尽力のお陰と感謝しております。一昨年にはともに歩んで来られた、100人コーラスの方々とご一緒に、10周年の記念演奏会を宇都宮大ホールで盛大に行い、正に宇都宮市はもとより、栃木県を代表するシルバー楽団として君臨しています。

弦楽器が大分増員され見事な演奏振りですし、マンドリン、大正琴まで含めて、ハーモニー、音色とも良く纏めておられました。

「証城寺の狸囃子」の歌など地方の特徴を良く生かした曲目が多いのも、何時もながら宇都宮アンサンブルの特徴。

名実共に安定した実力のある楽団として、益々の研鑽を期待します。



◎2評：

まず最も安定した楽団ではないかと思います。団員も十分確保され、かつ全ての楽器を生かして、大きな輪のように音が丸くなつたように響いていました。

曲目もロシヤ民謡あり、何時もながらの日本の童謡ありで、何時しか、口ずさんでしまいました。

文字通り音楽会です。原点に帰つてこれが私達に「相応の音楽会!」と思いました。

来る25年度の第12回宇都宮大会は、このような素直な気持ちで集まり、シニア・シルバーらしい音楽会にしたいと思いました。

※ 第12回 宇都宮大会の日程は平成25年9月29日(日)に決定。

⑨横浜・横須賀合同シニアアンサンブル

指揮：鎌木融先生 横須賀代表：清水玲子以下13名 横浜代表：堤 通能以下19名

演奏曲：「日本の調べ（越天楽・お江戸日本橋・かぞえ唄・黒田節・春の海）」

「三木たかしヒット・メドレー」

◎1評：

日本調を主題にした音楽の表現に、打楽器やキーボードを駆使して、特に琴の音色まで出したのは、高度な編曲の技術ではなかろうかと思いました。

一方で管楽器を多く使用して良く纏めました。ヴァイオリンも良く働いていました。

バランスをとることが難しいと思います。

兎も角すべてが日本調にまとめられたのがとても印象的でした。



◎2評：

「越天楽」は大交響楽団の演奏かと紛う程、大きくゆつたりとしたムードがあつて、夢心地になりました。琴の名曲「春の海」を管弦楽器で聞くなぞ、思つてもみませんでした。新規開拓の精神が旺盛な証拠であり、このような一種の冒険があつて良いと思います。大変勉強になりました。

最後に全員が手を振つて観客に応えられたのは、シニアアンサンブル大会に相応しく感じました。

⑩リード・フレンド・マリーネ

指揮・代表：小美濃秀行先生以下 14名

演奏曲：「素敵なあなた」「ビヤ樽ポルカ」

「フェリシア」「コラソン・デ・オロ」

◎1評：

小美濃先生はやがて88歳と言うご高齢にも関わらず、全日本の殆どの大会にご出演下さり、本当に頭の下がる思いです。ネリマ(練馬)の逆がマ

リーネの語源であることを皆さんご存知でしょうか？ なんと「遊び心」のことか。

しかも先生は絶えず向上心を持って、ご指導しておられる姿に感服させられます。

「連盟」の宝と申すべき方だと思います。

何と言つても「ビヤ樽ポルカ」は昔なつかしく、しかもなんとも言えない哀愁があつて、胸が詰まりそうでした。絶品です。



◎2評：

リード(ハーモニカやアコーデオン、クラリネットなど)一色の演奏、小美濃先生はこれで高いレベルの演奏を貫き通して來た。立派なことです。そして合奏用のホルンとアコーデオンを駆使して懐かしい表情を表現してくれました。これぞシニアやシルバーに最も受ける音かも知れない。宇都宮ではさぞかし喜ばれるでしょう。二年後また会いましょう。

⑪我孫子・千葉・市川合同シニアアンサンブル

指揮：笹森 敏明先生

我孫子代表：牧野直彦以下15名

千葉代表：山崎信子以下26名

市川代表：岡村斎能以下16名

演奏曲：「ペルシャの市場にて」

「ラ・クンパルシータ」

「ビリーブ」



◎1評：

3 楽団の合同演奏故多数を如何に

纏めるか。指揮者はさぞ大変なことだと思います。

楽器の編成が難しいと思います。演奏のバランスをとることも大変だと思われます。

笹森先生には已むをえず、3 楽団合同演奏をお願いして、終演時間を早めることが出来ました。

我孫子と千葉とはかなりの距離がありましたのに、大変申し訳ありませんでした。

◎2評：

正直3 楽団の演奏を十分鑑賞する時間がなく、論評を省かせて頂きます。

最後の全体演奏のことで一杯でした。ご免下ださい。

⑫全体合同演奏(会場の皆様も一緒にご唱和)

指揮：笹森敏明先生 演奏曲：「月の砂漠」「里の秋」「青い山脈」

◎総括：

兎も角本大会は会場が広く、これ以上の演奏会場は二つとないのではと思う。そして何と言っても

1. 音の響きが非常に良く、音がよく通っていたこと

2. 客席が広く、あまり疲労はしないこと。

3. すべてがゆったりとして、気持ちが落ち着いて行動出来たことが幸いでした。

4. 強いて言えば歩行者に対して、照明が少し十分でなかったように思いました。



「第11回シニアアンサンブル全国大会 さわやかコンサート in ちば」アンケートについて

千葉大会実行委員会アンケート係：溝渕 有多子様からいただいた総評です。

お天気にも恵まれた平成23年10月10日、シニアアンサンブル全国大会が千葉県文化会館で開催され大勢のお客さまにいらして頂き盛大に終る事が出来ました。これも実行委員の方々、各地団員の方々の熱心なご努力の賜物と思います。トータルで約1050名の方がお見えになり、当日券を買われた熱心な方は162名でした。

その内246名(約27%)からアンケートに回答を頂きました。殆どが「出演者及びその家族・知人」から入場券を入手した方で、それ以外の「新聞・チラシ・タウン誌・地域新聞」は39名でした。

来場された方はやはり千葉市内が一番多く88名、次に市原21名、船橋が19名です。その他千葉県各地からそれぞれ1~7名。東京地区から9名、埼玉県5名という人数でした。年齢属性は圧倒的に60代、70代が多く151名。特に70代の男性が46名、次いで70代女性35名でした。また80代も14名いらっしゃいます。50代で11名。20~40代は10名以下。最少年齢はCSEの柏原さんのお孫さんの14歳と6歳です。

殆どの回答者が「楽しかった・元気をもらった・懐かしかった・年齢を感じさせない上手な演奏・バラエティに富んでいた等」と感激して絶賛されています。しかしこれは関係者に近い方々の回答なので少し割引きが必要かと思います。

そこで、アンケート表のトップに「新聞その他」から券を入手した方の回答を載せましたが、そこでも感激したというご意見が多かったです。

千葉市の熊谷市長がスピーチで言われたように、シエアが活き活き活動できることは地域を盛り上げ、若い人々に夢を与える良い機会になるでしょ

う。その点でも今大会は下準備から宣伝、当日の運営、300名近い出演者、その為の日頃の練習、それら全てをシニアが自分達だけで成し遂げたということは、多少の反省点や改良点があるとしても、自信を持って誇って誇っても良い事と思います。

アンケートによると、殆どの方が何らかの楽器の演奏経験があり、好きなジャンルはクラシックが170名、ポップス124名、タンゴ115名、映画音楽129名、日本の名曲89名、その他でした。

コメントとして舞台進行についてはスムースにといったとモタツイタが半々。司会者についても賛否両論ですが、7対5で良かったが多かったようです。

また、若いスーツのお嬢さんがとても親切でテキパキして良かったのご意見がありました。千葉県立女子高校の皆様に感謝です。

反省点として「このような会が有る事を知らなかった」、「もっと宣伝したほうが良い」がそれぞれ6名ありました。

開催地以外の地域に宣伝するのはなかなか難しいと思いますが、アンケートNo.42のご意見「参加団体42のシニアコーラス全国大会を聞きに行った」は参考になるのではないでしょうか。その他として「埼玉にもシエアアンサンブルが欲しい」、「プログラムに各団の紹介があった方が分かりやすい」、「会場場所や駐車場がわかり難い」等。

最後に、全国大会はコンテストではない、皆で盛り上げて楽しむものであるという主旨から、個々の評価はここには載せませんでしたが「デューク・グリーン・サウンドの演奏が素晴らしかった」というご感想が20名もあった事をご報告いたします。

来場者アンケート分析

以下は、246名の回収アンケートを事務局が纏めたものです。

●来場者総数：1050名 ●アンケート回答者数：246名 ●回収率：24%

1. 演奏会の認識状況（この演奏会を何でお知りになりましたか）

複数回答あり

出演者：126（50%） 知人：70（28%） チラシ：18（7%）
新 聞：18（7%） 招待：10（4%） その他：9（4%）

2. 演奏内容について（アンケートから抜粋して要約）

とても良かったが全員の感想を前提として

- 懐かしい曲、なじみの曲、皆の知ってる曲が聞けて良かった。
- 多種目に亘る演奏。 多彩なジャンル。バラエティに富んでいる。
- 年齢に合った良い演奏。高齢者とは思えない演奏。レベルの高い演奏
- シニア・アンサンブルの全国組織の存在を初めて知った。
- 埼玉にはシニアアンサンブルは無いのですか。
- 皆様の日頃の研鑽の結果に敬服しました。
- 年に2回位、こんな演奏会があればと思います。次回を期待します。
- 楽しく3時間が過ぎました。少しも苦になりませんでした。
- 演奏者の方々がとても楽しく演奏を楽しんでいるのが感じられた。
- 私は83歳、尺八をお稽古しています。今日の演奏会で元気を貰った。

※各楽団への評価は割愛します。全てお褒めの言葉に満ちています。

3. 演奏会の運営について

- 司会者が良かった。
- 司会者が早口で聞き取り難い。
- ステージ転換スムーズ出来た。一部に手間取るのが見受けられた。
- 黒子の女性の働きが素晴らしく爽やかでした。
- 前方に空席が見られた。宣伝が足りないのではないか。
- 各楽団の連絡先があればよい。プログラムに連絡先があれば。
- 全国なので、東北、東海、関西からの参加があればよい。
- バスを降りてからの道案内がなく迷った。
- ホールの音響が素晴らしかった。
- 駐車場の案内が明記されていると助かります。
- 係りの方々がとても親切で助かりました。
- 指揮者のプロフィールをプログラムで紹介してほしい。

平成23年度 第4回 理事会議事録

平成23年度第4回理事会が下記のとおり開催されたので、
定款第37条の定めにより第4回理事会議事録を作成。

日 時 : 平成23年11月27日(日) 13:00~16:30
 場 所 : 調布市市民文化会館「たづくり」6階601会議室
 出席者 : 芹澤 岡村 高橋 堤 松永 (監事) 上原 (同) 清水
 委任状出席 : 鈴木 萩原 尼子 佐野 穴倉
 欠 席 : 林
 事務局 : 山崎 小林 戸田
 議長に芹沢、司会に山崎、事録署名人に堤・松永、記録に小林・戸田を選出
 司会山崎より定足数の確認があり、本理事会が有効に成立していることを宣言した。
 理事長挨拶のあと、直ちに議事の審議に入った。

◆議 案

I : 第11回全国大会(千葉)の総括

岡村大会実行委員長より

去る平成20年4月総会に於いて第11回全国大会の開催を受諾、同年10月千葉県連盟発足させ同連盟加盟楽団員を以って大会実行委員会を立ち上げ全員総力を挙げて本大会開催に邁進してきた。

今大会では

- 1) 従来のコンクール指向をフェスティバル指向に切り替え
- 2) ステージの入れ替え時間のより一層の短縮
- 3) アトラクション・ゲスト出演の取り止めによる自主公演性の強調
- 4) 参加楽団にも座席を確保して極力僚友楽団の演奏を観聴してもらう。等に配慮した。

◆参加状況

出演団体16、12ステージ、出演者277名、アルバイト30人、

一般客1050名、招待客50名、合計1,400名(概数)

収容人員1,790人を満杯にはできなかったが全員の努力で収支バランスも剩余金を以って終了できた。ご来場者アンケートにも好評を窺わされる内容のものが多数見受けられた。

この3年半の間に地元千葉県内では千葉SE、船橋SE、市川SE、市原SE、四街道SEと5楽団の設立・加盟に注力した。が一方 柏、松戸SEの連盟脱退に加え北海道、天童、広島、井の頭、武蔵野、横浜の楽団が脱退したことは、今後連盟を大きく成長させる上で反省すべきことと思われる。

◆収支会計報告

入場券@500円の有料とし、千葉県内の参加団員1人につき、6~12枚販売割当制にした。

広告料収入については、途絶えていたヤマハからも若干ながら復活があり、今後に向けて光明を見い出すことができた。

(財)芸術文化振興財団からの助成金は今回却下されたが、継続することが結果に繋がると思われる。

◆集客

前述の通り1,790人の座席を満席には出来なかったが、1,000名以上の観客を動員できたことは良かった。

今後の方向性としては、贊助出演及びメディア報道依存路線から自主公演路線に舵を切るべきであると思われる。

◆進行

楽団の入れ替え時間のより短縮に高橋理事のご尽力多大であり深謝します。結果15分の延長に止まった。熊谷千葉市長のご来駕・祝辞頂戴は萩原県連副理事長(大会実行副委員長)のパイプの太さとご尽力に依るもので、併せ深謝します。

◆その他

ポニーかつしかの斎藤マサ子団員がリハーサルのための移動中に階段で転倒し、顔面負傷の事故が発生した。今後もシニアの集まりであるので、安全確保、危機管理に充分配慮する必要がある。
と総括された。

◆本件に関する質疑として

松永：加盟楽団の脱退は残念である。連盟加盟のメリットは何かを強調する手はなにか？

理事長：同好の士が集い、素晴らしい音楽を奏で、それを聞いてくださる方に演奏する事を以て交流の輪も太く大きくなること。

清水：NPO法人設立趣意書の中に要領よく纏められているのでご一読(再読)をお勧めする。

全国大会開催を広く伝える手段として、従来からのラジオ、テレビ、新聞等のメディアに加えシニア向け雑誌(いきいき、悠久など)イベント情報誌などを使うことも一方法。

高橋：舞台入れ替え時間の短縮を図るため、電子楽器のアンプを共用としたが、出力相違、差込口識別の煩雑さ等があり、自前の使い慣れているものの持ち込みのほうがベターである。

ポニー・かつしか 斎藤さまの館内での負傷事故に関して。

上原代表より事故発生の模様、治療の経緯と現在に至る症状と本人からの謝意・メッセージ等の伝達あり
事務局：さきの広島、横須賀大会においては、不慮の事故に備えて保険をかけていたことが判明した。

本大会ではそこまで配慮が及ばず、ポニー・かつしか 斎藤さまが負傷事故を負われたので、上原代表を通じてお見舞いをしたが、本格的な治療(要手術)は痛みが治まるこれからとの状況に鑑み、事故当日から応急手当(10/27まで)治療費・諸雑費は連盟負担といたしたい。と提案
全員の賛同を得た。

高橋：(参考意見として)足立では楽団の規約のなかに「自己責任」を明記している。との発言あり。

●寄付金(義捐金)の処理

総額78,241円 寄付先 高知市神田2126-1(株)リーブル内 一滴の会

今回の大震災でピアノを流失された学校へピアノを贈る活動をしている団体へ寄付した。

義捐金募集の目的に合った寄付であると全員了解。

●アンケート結果(来場者)

来場者総数：1050名 アンケート回答者数：246名 回収率：24%

回答の殆どにお褒めの言葉が述べられている。

詳細は「ひびきあい」第51号に掲載する。

◆講評

(講評者 村上名誉理事長 芹澤理事長 鈴木副理事長)

詳細は同じく「ひびきあい」第51号に掲載する。

2: 平成24年度総会議案等に関する件

理事長より開催時期: 平成24年4月上旬、開催場所: 調布市民文化会館「たづくり」

審議内容 前年度の活動報告・決算監査報告

当年度の事業計画・予算案の審議・役員改選(全理事23/12を以って任期満了)

会場が取れ次第通知する。

3: 役員の職務分掌の明確化

理事長より、当面

イ) 加盟楽団の増強担当理事(傘下楽団数を増やす)

ロ) 連盟財政の強化担当理事(各支援金、賛助金先の確保)

ハ) 国際事業担当(萩原理事決定)(国際交流を図る)

の3項目について理事各位の力を借りて、本部と一体となり連盟をより大きく成長させたい。

各項目毎に2名の理事に自薦・他薦を問わず選出したい。

ハ) の国際交流事業については、定款の目的に謳われながら未だ着手していない。

理事各位の考え、所属楽団員の要望等を伺いたい。

◆理事発言

岡村: 連盟の活動とは別であるが、市川SEは来年6月ハワイで演奏する予定がある。

上原: 合同の楽団を編成することになると思われるが、指揮者、曲目、練習と課題山積である。

岡村: 核となる楽団に他楽団から希望者を募り編成する方法が手っ取り早い。

清水: 国外へ出て行くだけが国際交流ではない。地域の国際交流協会(センター)と接触を持って地域に居住する外国人と音楽活動をすることにより、その外国人が自国に戻ったときに太いパイプ役になる可能性大。

理事長: 担当の萩原理事に行動を起こしてもらい、加盟楽団のご理解とご協力を願う。

4: 第12回全国大会(宇都宮)に関して

理事長より

宇都宮の鈴木副理事長より開催日、会場決定の朗報。と以下の報告あり

開催日: 平成25年9月29日(日) 会場: 宇都宮市 県民文化会館ホール

これまでの大会の反省をふまえて、より充実した大会にすべく協力要請あり。

5: 「ひびきあい」第51号の編集と連盟HPの運行状況

事務局 小林より

「ひびきあい」は、さきの全国大会関連記事をメインとする。連載記事「音楽と私」今回の議事録と朋友楽団の周年記念・定期演奏会報告も載せたいので、寄稿をお願いする。

事務局 戸田(I.T担当)より

HPにアップする情報を寄せていただけるようお願いする。

6：その他

定款細則：交通費規定の制定について

理事長から提案理由の説明

限られた予算の中、連盟の業務遂行のための移動は交通費自前である。従来交通費規定が無かったのでここに細則制定を提案する。

定款第11章

(細則)

◆第59条

この定款の施行についての必要な細則は、理事会の議決を得て理事長が別に定める。

細則案

1：正会員代表、理事が総会、理事会に出席するための交通費は所属楽団の負担とする。

2：事務局員が総会、理事会、事務局会及び事務処理のために要した交通費は連盟の負担とする。

3：担当理事がその活動の為に要した交通費は連盟負担とする。

但し、その活動の内容を理事長及び事務局長の決裁を事前に得ること。

4：施行時期は平成23年1月1日に遡り実施するものとする。

以上

◆本件に関する理事の発言

清水：従来自己負担で来ているので、今更請求はしにくい。

上原：項目3については予算制とすべきである。またある程度の制限を設ける必要もある。

施行時期は24年1月からにすべきである。

◆事務局より

総会、理事会等への招集文書に「交通費は所属楽団で支弁して下さい。」と明記することにより清水監事が抱えておられる問題は解決する。等の討議を経て採決の結果可決された。

施行時期平成24年1月

なお、項目3については、定款の定め通り理事長が支給制限を設けることとする。

以上を以って審議終了。

芹澤理事長より議長閉会を宣言して終了。

(議事録中敬称略)

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成23年11月27日

特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟

平成23年度第4回理事会に於いて

議長 芹澤 昭仁 印

議事録署名人 堤 通能 印

議事録署名人 松永 恒文 印

演奏会報告

創立40周年記念コンサートを開催

リード・フレンド・マリーネ
代表 小美濃 秀行

練馬区練馬公民館でのハーモニカ講座で蒔いた種が楽器ファンの皆様に愛され育てられ、太く大きく逞しく成長し、去る10月23日、大泉学園駅前のゆめりあホールで創立40周年記念コンサートを開催しました。

お陰さまで会場満席のお客様におはこびをいただき、このコンサートを盛り上げて下さったアコデオントリオ、ハーモニカ独奏、ソプラノ歌手の歌声と当楽団の演奏で楽しいひと時を無事に終演することができました。これも偏に皆様のご支援のお陰と団員一同感謝しております。

さて、私事で恐縮ですが、5歳のとき（昭和2年）19歳年上の兄が持っていたハーモニカを吹いてその美しい音色に魅せられて、私はハーモニカとの人生を歩み始めました。

昭和18年 陸軍機甲整備学校入隊に際し、ハーモニカ12本持込み許可。

昭和19年 陸軍滑空飛行第一戦隊（茨城県筑波）に配属。ハーモニカ3本持込み許可。演芸会その他で演奏。一方戦局は日々悪化の様相を呈し、ハーモニカを吹く余裕は全くありませんでした。国内外にて軍務に服しましたが昭和20年8月15日朝鮮半島（北朝鮮）宣徳飛行場で終戦。9月1日部隊は沙里院駅構内で解散。少人数での行動をとることとなり、同年兵と少年飛行兵と私の3人で京城（ソウル）を目指して北朝鮮の山中をさ迷い歩きました。その間、空腹に耐えかねて川の水を掬い飲みもしました。

山間の農家に窮状を訴えてジャガイモとトウモロコシを恵んでいただき空腹を満たすことができました。

御礼を…と思っても3人とも一文無し。無銭飲食では恥ずかしい…。その時、肌身離さず持っていたハーモニカに気がついたので感謝の意を込めて朝鮮民謡「アリラン」と現地人が知っているかどうかわかりませんでしたが「月の砂漠」を吹きました。吹き終わるとその農家の人が拍手してくれました。少年の頃、母が言っていた「芸は身を助ける」のひと言が見知らぬ異郷の山間の農家の庭先で蘇り「お母さんありがとう」、とはるか日本の空に母を思い懐んで泣きました。

10日間、山また山をさ迷い歩き9月1日ようやく京城（ソウル）に辿り着きました。

そこで一般人の引揚証明書をポケットに9月25日なつかしい練馬の大泉の生家に帰り着きました。

昭和23年楽器会社に就職して昭和52年に退職しましたが、現在に至るまでハーモニカ一筋の人生を歩んでいます。

マリーネは来年6月の練馬公民館サークル文化祭を初めとして、演奏活動の予定が多々あります。皆様のご来場をお待ちしています。





平成23年度 賛助会員(敬称略)

23年11月末現在

【個人】 1口 5,000円

村上 忍 (1口)	堤 通能 (1口)	(有)星ハウジング (2口)
芹澤 昭仁 (2口)	尼子 和世 (1口)	
山村 秀夫 (1口)	草 政一 (1口)	
島田 博一 (1口)	小林 忠雄 (1口)	

【団体】 1口 10,000円

編集後記

「ひびきあい」第51号ができあがりましたのでお届けします。

今回は、去る10月10日に開催された第11回シニアアンサンブル全国大会(千葉)をメインテーマとして編集しました。

隔年開催となりまして、前回の横須賀大会以降残念ながら脱退された楽団がありますが、新たに仲間に加わって下さった楽団の皆様の素晴らしい演奏も聴くことができ、これから成長、活躍が期待されます。

この連盟は、名にし負う「シニアアンサンブル」。その名をよく体して元気なシニアの方々が活躍されています。リード・フレンド・マリーネの小美濃様、市原シニアの柏原様にはご多忙ななか原稿をお願いしました処、即刻ご寄稿下さりありがとうございました。

さて、今年もあと半月ばかりとなりました。昨年からの狂牛病・鳥インフルエンザ騒ぎに九州・新燃岳の噴火、3・11の東日本大震災と大津波・

福島原発事故、大型台風による甚大な被害等々日本列島が大揺れの1年でした。

海外でも、アラブの春と呼ばれる民主化運動、タイの大洪水、EU加盟国の経済危機など、歴史に残る大激動を目の当たりにしました。

海の向こうの出来事が直ぐに私達の日常生活に影響を与える良きにつけ悪きにつけグローバリズムを実感させられます。

新しい年が皆様にとりまして、穏やかな良い年でありますようにお祈りしています。

(小林 記)

